



喜多埜

～ 秋分の日 ～

今月二十三日は秋分の日です。この日はお彼岸の中日にもあたる事から御墓参りに行かれる方も多いのではないのでしょうか。

さて、この秋分ですが、**昼夜の時間がちょうど半分になる**という事を「ご存知の方は多いですが、どういった現象で昼夜が半分になるのか」という事を具体的に答えよといわれると難しいものです。

この秋分の日には、太陽のまわりを**三六五日**かけてまわっている地球が、ちょうど**太陽の真横の位置を通る**ため、地球に対し太陽光が真横から当たるので、昼夜が半分半分になるという仕組みです。

ちなみに**夏至**には地球は太陽の斜め下を通るので、太陽光は地球の北半球の広範囲に当たり、その為、日中の時間が長くなります。反対に**冬至**は斜め上を通るため地球の北半球は日があまりあたらず日中の時間が短くなります。しかし、**南半球ではこの事象が逆転**しますので、ご存知のとおりオーストラリアでは真夏のクリスマスとなる訳です。

「暑さ寒さも彼岸まで」昔の人は衛星も無かった時代に感覚を研ぎ澄まし、この現象に感じたのでしょうか。先人の知恵、感覚に比べ今の私たちは鈍感なのかもしれませんね。

ところで、この日は休日となっていますが、世界的にみても**天文学的な事象に基づいて国家の休日**を設けている国は**珍しく、自然を尊び、四季と共に生きる日本人の特徴**をあらわす日ともいえるのではないのでしょうか。

～ 氏神様？産土様？鎮守様？ ～

氏神、産土、鎮守さまの違いについてのご質問が近頃多く寄せられており、面白い質問ですので、ここでもご紹介したいと思います。

氏神さまとは、その方の**氏姓の祖神**であると考えられると良いでしょう。例えば藤原氏であれば春日さま、といった具合に**祖先神**が氏神の本来の定義であります。しかし、時代が下がるに連れて、**氏神**＝その地域の**地主神**さま、として考えられるようになり、その**氏**地で生活する方にとつての**守り神**さまは氏神さまとして今では認識されています。

産土さまとはその文字からも分かるように、**生まれた土地の神**さまであり、出身地に一番近い神社の神さまと考えていただければ良いでしょう。

鎮守さまとは、定義が曖昧で、今では氏神様とまったく同じ扱いですが、本来は何も無かった土地などを開拓し、そこへ**新たに勧請した神社**などを指す場合が多かったようです。しかし、勧請した頃は、その開拓地の**災いを鎮める神**さまとして崇められるだけの神さまでも時が経つにつれ氏神さまとして認識され、ひいては産土さまと敬われていく**考えの柔軟な点**は日本人の**信仰心の良い点**に思います。

以上、三様の違いについてご紹介しましたが、大事な**のは先人を敬い、大自然の恩恵への感謝の心**である事を忘れてはいけません。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ボーダフォン
e z Web 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀知

